

國學院大學學術情報リポジトリ

松園梅彦編『五国語箋』の諸本について

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村山, 昌俊 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.57529/00000924 |

松園梅彦編『五国語箋』の諸本について

村山昌俊

はじめに

『五国語箋』（松園梅彦編、万延元年〈1860〉）は、日本語・英語・仏語・蘭語・露語の対訳単語集で、同類の対訳単語集である『三語便覧』（村上俊英編、嘉永7年〈1854〉）と、『魯西亞字箋』（榊令輔編、安政2年〈1855〉）の影響を受けて成立した。日本語索引に相当する総目は本文の日本語の所在を、本文は外国語（の読み）から日本語を検索するしくみになっている。なお、収録語数は日本語 886 語に対して、露語は 83 語でしかない。

『五国語箋』を洋学資料として最初に公にしたのは、杉本つとむ（1981）である。その後、杉本は杉本（2000）で自身の所蔵本をもとに解題付きの影印を刊行した。その解題には次のように記されている。

『国書総目録』には、香川大学の神原文庫の^{ママ}下巻一冊の所在をあげているが、いわば稀覯本に属する。わたくしはオランダ、ライデンに遊学中に、同国でこの二冊完本を入手することができた。

とある。確かに『国書総目録』（補訂版、1989年）には香川大学蔵本しか収録されていない。そうした状況もあってか、これまで『五国語箋』の全国的な調査がなされていなかった。

近年、筆者が調査したところ、杉本蔵本と香川大学蔵本の2本以外に新たに3本の所在を確認した。したがって、現在では5本が存在することになる。杉本蔵本と香川大学蔵本を含め、5本の所在は次のとおりである。

杉本つとむ蔵本（上・下巻2冊、以下杉本本とする）

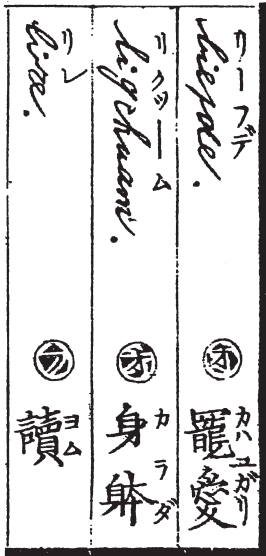
明治学院大学図書館蔵本（上・下巻2冊、以下、明治学院大学本とする）
京都外国語大学図書館蔵本（上・下巻2冊、以下、京都外国語大学本とする）
東京大学文学部国語研究室蔵本（上巻1冊、以下、東京大学本とする）
香川大学図書館（神原文庫）蔵本（上巻1冊、以下、香川大学本とする）

この5本のうち、東京大学本と香川大学本は上巻のみの1冊である。香川大学本は更に凡例と総目を欠く。他の3本は上巻・下巻の2冊本である。香川大学本は凡例と総目を除く本文のみの比較しかできないが、5本間の異同は上巻の総目と本文においてわずかに認められる。下巻について3本間の異同はほとんどない。

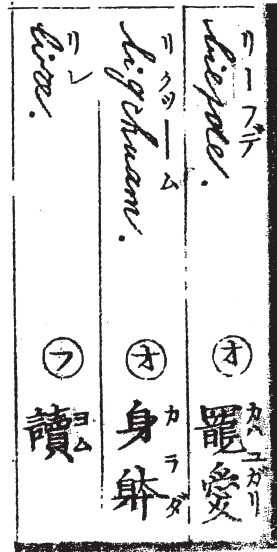
『五国語箋』は上・下巻の2冊本での刊行が先である。そして、杉本本と明治学院大学本が初版（初刷り）と思われ、他の3本はその誤りを正そうとした修訂版とみられる。初版と思われる2本のうち、杉本本（影印による）は刷りが不鮮明な箇所がみられるので、刷り・保存とも良好な明治学院大学本を用いたいところであるが、明治学院大学本の複写を例示できないので、杉本本（影印）をもって修訂版とみられる3本との関係を述べていく。なお、『五国語箋』の解題については、杉本（2000）及び村山昌俊（2014）を参照されたい。

I 杉本本・明治学院大学本について

杉本本と明治学院大学本が初版（初刷り）であると認定したのは、上巻本文22丁表の次の3か所の外国語表示の彫りの状態である。この2本が次のように彫りが不完全なまま刷られているのに対して、他の3本は正しく彫られている。杉本本と東京大学本を比較すると次のとおりである。



杉本本



東京大学本

2 京都外国語大学本について

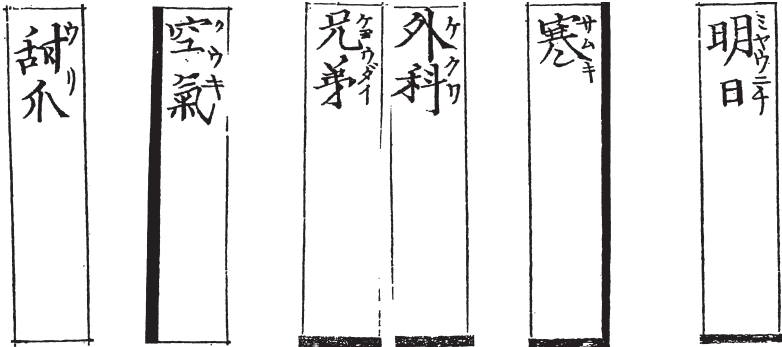
杉本本との異同は、上巻本文 22 丁表の外国語表示の箇所、東京大学本と同様に正しく彫られている箇所である。したがって、京都外国語大学本は杉本本・明治学院大学本の修訂版とみなされる。しかし、この京都外国語大学本も次に述べるように東京大学本とも異なる修訂版である。

3 東京大学本について

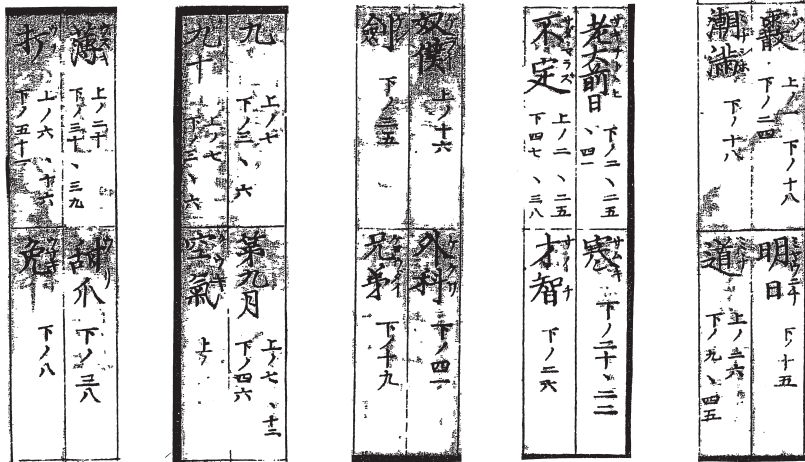
東京大学本は下巻を欠くため奥付はない。上巻についての書誌事項は杉本本・明治学院大学本・京都外国語大学本と同じであるが、総目・本文ともに異なる。

まず、総目（上巻）では、杉本本・明治学院大学本・京都外国語大学本は「甜瓜」(11 丁表)・「空気」(11 丁裏)・「外科」(13 丁裏)・「兄弟」(13 丁

裏)・「寒」^{サムキ}(17丁表)「明日」^{ミヤウニチ}(18丁裏)の6語の本文所在が記されていないが、東京大学本は記されている(「空気」は「上ノ」とあるだけで丁数が記されていない)。対比すると次のようである。東京大学本は該当箇所の前後も示した。



杉本本

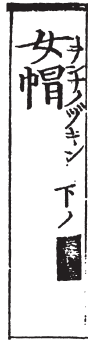


東京大学本

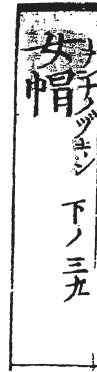
東京大学本のこの6か所のうち、「甜瓜」・「外科」・「兄弟」・「寒」の所在表示の文字と数字をみると、他に比して大きさと濃さが異なり、埋木によって修訂されたことがわかる。「空気」はあまり違わないが、「明日」は片仮名の「ノ」の位置から、この2語の所在表示も埋木と思われる。なお、「空

気」の所在表示に丁数が記されていないのは、この語が本文に収録されていないことによると思われる。

また、杉本本・明治学院大学本・京都外国大学本は「女帽」(6丁表)の所在表示「下ノ」の次の丁数が消されているのに対して、東京大学本は「三九」と下巻の丁数が記されている。



杉本本



東京大学本

総目に対する杉本本・明治学院大学本・京都外国大学本の本文の該当箇所は「頭帽」^{ツギキ}となっていて、別語である。「頭帽」は総目(9丁表)と本文(上巻10丁表・26丁裏、下巻39丁表)の両方にあるが、「女帽」は本文には収録されていない。『三語便覧』(初巻)に「頭帽」(52丁表)と「女帽」^{ツギキ}(53丁裏)の両語(いずれも蘭語は muts)があり、編者松園梅彦は本文に「女帽」も収録したと思って総目に所在(丁数は不明)を記したものの、後に誤りに気づき、初刷りの段階で消したのであろう。原表記の縦書きを横向きにして示す。

| | | | |
|-----------|----------|------|-------|
| 頭帽 ツギキ | bonnete. | cap. | muts. |
|-----------|----------|------|-------|

| | | | |
|-----------|---------|------|-------|
| 女帽 ツギキ | coiffe. | cap. | muts. |
|-----------|---------|------|-------|

そして、東京大学本は他の箇所の不備を修訂するにあたり、再び丁数を入れたのではなかろうか。この箇所に限ってみれば、初刷りの段階で丁数の記されていたものを、後に誤りに気づき消したと考えるほうがよさそうに思えるが、東京大学本での「甜瓜」以下5語の埋木による所在表示と、杉本本の外国語表示の彫りの状態から、杉本本を初版とみるかぎり、このように説明せざるをえない。

次に本文についてみると、先に指摘したように杉本本の22丁表下段の *liefde, ligchaam, lire* の外国語表示（それぞれ④、⑤、⑦）の彫りが不完全であるのに対して、東京大学本は正しく彫られている。杉本本は試し刷りの過程を省いたか、あるいは試し刷りをした後でも見落として刷ってしまったかのいずれかであろう。上巻の本文ではこの箇所以外には相違はみられない。

なお、東京大学本が杉本本・明治学院大学本、あるいは京都外国語大学本の修訂版であるにしても、その誤りをすべて修訂しているというわけではない。たとえば、杉本本の総目で「兵糧」の所在を「上ノ十七」「二四」「下ノ十八」としているが、いずれも誤りで本文にはこの語は収録されていない。この箇所は東京大学本でも誤ったままで、修訂されていない。また、「新酒」は「下ノ十八」「二十」「三六」とあるが、正しくは上巻の7丁表にあり、下巻には収録されていない。こうした杉本本・明治学院大学本、あるいは京都外国語大学本の所在の誤りを修訂していない箇所は、他に4か所（「半」「小女」「右方」「捻鎖」ルビ省略）ある。

以上のことから、東京大学本が杉本本・明治学院大学本、あるいは京都外国語大学本の不完全な修訂版であるといえる。ただ、東京大学本が当初から上巻のみの刊行だったのか、あるいは下巻が散逸してしまったのか即断はできないが、修訂が全て総目と本文の上巻であることから、東京大学本は上巻のみを修訂版として刊行したのかもしれない。1冊のみの軼入りであることからその可能性がある。

外国文化と外国語に対する戯作者松園梅彦の強い関心から、『五国語箋』の編集を思い立ったもので、外国語に関心のある人々に広く供しようという意図はそれほどなかったものと思われる。そうした理由から、初版とその版の修訂版のみの刊行で、新たに版を起こすまでには至らなかったのであろう。

参考文献

杉本つとむ (2000) : 『洋学資料文庫②五国語箋』 (皓星社)

村山昌俊 (2014) : 「松園梅彦編『五国語箋』の成立について」 (『言語文化研究』第十三号)

[付記] 本稿をなすにあたり、閲覧の許可をいただいた明治学院大学図書館、京都外国語大学図書館、閲覧及び複写の許可を頂いた香川大学図書館、東京大学国語研究室に御礼申し上げます。